第二次土岐市読書活動推進計画

「読書が育てるまちの未来」

（案）

令和　年　月

土岐市

目次

第１部　計画の概要

１　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３　計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

第２部　第一次計画の取組状況と本計画の前提となる課題

１　第一次計画の取組の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２　第一次計画の指標の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

３　本計画の前提となる課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

第３部　基本方針

１　基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

２　計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第４部　読書活動の推進方策

基本方針１　読書に親しむ環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・13

基本方針２　読書でつながる仲間づくり・・・・・・・・・・・・・・・17

第５部　計画の実施・検証

１　計画の進行管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

２　実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

３　検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

４　見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

第 1 部　計画の概要

1　はじめに

国は、「子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資する」ことを目的として、平成 13 年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下「法」という。）を施行し、同法に基づいて、平成 14 年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。その後、おおむね 5 年ごとに基本計画の改定を行っています。

また、岐阜県においても平成 16 年に「岐阜県子どもの読書活動推進計画」を策定して以降、5 年ごとに第五次計画まで策定しています。

本市では、法の趣旨に基づき、平成 23 年に「土岐市子ども読書活動推進計画」を、平成 28 年に「第二次土岐市子ども読書活動推進計画」を策定し、令和 3 年にはこの計画を発展的に引き継ぎ、すべての市民を対象とした「土岐市読書活動推進計画」（以下「第一次計画」という。）を策定して、市民の読書活動を推進してきました。

第二次土岐市読書活動推進計画（以下「本計画」という。）は、第一次計画期間中の社会状況の変化や取り組み状況、成果等を踏まえ、乳幼児から高齢者まですべての市民の読書活動の一層の推進を図るため、新たな 5 か年の方向性を示すものとして策定します。

2　基本理念

読書活動は、論理的思考や好奇心の醸成、ひいては豊かな人生を送るために大きな役割を果たすものです。世代によって、また、発達段階に応じて読書の目的や方法は多様です。こうした多様性に留意しながら、生涯にわたり読書に親しむ環境を整えることが必要です。

そのために、市図書館、学校、家庭、地域等が連携して読書環境の整備に努め、世代や地域、障がいの有無を問わない読書活動の推進を目指します。

本市は、読書活動を推進することで、まちの文化や未来を担う人材の育成、生涯にわたり Well-Being[1]で幸せに暮らし続けられるまちの形成を図ることにより、「読書が育てるまちの未来」の実現を目指します。

3　計画期間

本計画の期間は、令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間とします。

1　肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいう。

第２部　第一次計画の取組状況と本計画の前提となる課題

１　第一次計画の取組の評価

第一次計画では、基本方針ごとに施策を定めて読書活動を推進しました。本計画の策定にあたり、施策の主要な取り組みについて以下のとおり評価しました。

基本方針１　読書に親しむ施設環境づくり

施策１　市図書館の充実

・身体に障がいがあることで市図書館への来館が困難な方へのサービスとして、令和４年１月から郵便局と連携した「障がい者郵送貸出サービス」を開始しました。本サービスの利用実績は未だ少ないため、今後、サービスが必要な方への周知を進めていく必要があります。

・休館時や遠方等で市図書館へ来館できない方へインターネットを通じて電子書籍を貸出するサービスとして、令和３年７月から「ときし電子図書館」を開始しました。市図書館では、小中学校へ出張して電子図書館の利用方法の周知に取り組んでおり、利用者の約９割は小中学生となります。今後は、大人への周知に取り組む必要があります。

施策２　学校図書館の充実

・令和３年度から段階的に、学校図書館の環境整備を行う学校司書支援員を配置し、令和５年度から校区毎に１名配置しています。また、令和３年度には、貸出記録や蔵書管理が可能な「学校図書館システム」を導入しました。市内すべての小中学校で学校司書支援員と図書主任が連携して特色ある学校図書館づくりを進めています。

市アンケート調査によると、学校図書館をまったく利用しない、または、年に１回から数回のみ利用すると回答している児童生徒は、小学生では約３割、中学生では約５割を占めています。学校図書館の整備は進んでいますが、児童生徒が積極的に利用し読書機会を得るために更なる取り組みが必要です。

施策３　くつろいで読書を楽しむ空間

・令和５年３月に市図書館１階をリニューアルし、読み聞かせ等を行う「おはなしコーナー」、子ども用の読書スペース、隣接する土岐川公園と連結するテラスを設置しました。子どもが集い、くつろいで読書を楽しむ空間の整備により、読み聞かせ等のイベントが充実し、交流が生まれています。一方で、大人向けのサロン的な空間づくりやコミュニティ形成の支援は進んでいないため、手法も含めて検討していく必要があります。

基本方針２　読書でつながる仲間づくり

施策４　地域・学校との協働

・住んでいる地域や生活の状況により読書機会が減少しない読書環境づくりを進めるため、令和６年 11 月から「移動図書館車」で地域の公民館や社会福祉施設、教育支援センターへの巡回を始めました。次頁の表は、市図書館における一人当たりの年間貸出点数（貸出密度）の地域別の推移となりますが、地域間の差は、策定時と比べて変化なく、市図書館から遠い地域ほど貸出密度が低い状況です。移動図書館車や電子図書館の普及により、差の解消を図っていく必要があります。

貸出密度の推移（地域別）　　単位：冊数

	土岐津	下石	妻木	鶴里	曽木	駄知	肥田	泉
R2	3.98	1.81	1.91	0.22	2.57	1.41	2.88	4.08
R3	5.10	2.08	2.46	0.83	2.46	1.88	3.40	5.04
R4	4.13	1.9	2.18	0.78	1.24	1.76	3.18	4.66
R5	5.48	2.33	2.64	1.02	1.55	2.15	3.82	5.55
R6	5.15	2.42	2.43	1.18	1.80	1.88	3.62	5.23

施策５　事業の連携

・PTA や家庭教育学級で長期休みや読書週間を利用した家庭における読書活動を勧めました。また、図書館ボランティアや地域のボランティアと連携して、図書館や移動図書館で読み聞かせ会等のイベントを開催しました。

・本が好きな市民の自主的な活動の支援や、本を通じた市民コミュニティの広がりの支援は進んでいないため、手法を検討していく必要があります。

基本方針３　読書に触れる取り組みづくり

施策６　イベントの開催

・市民が読書活動に親しみ、交流する機会を創出するため、令和２年度からブックフェスの開催を始めました。令和４年度からは科学イベントと共同で「ブック＆サイエンスフェス」を開催しています。来場者数は年々増加しており、市民が読書活動に親しむ機会として定着しつつあります。

2　第一次計画の指標の状況

第一次計画では、指標毎に目標値を設定して取り組みましたが、中学生の「学校以外での読書率」を除き、いずれも目標を達成することはできませんでした。計画期間中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、図書館利用が減少したり、読書イベントが縮小したりする等、読書活動の働きかけを充分実施できなかったことが要因として考えられます。

項目	対象	策定時の現況値	目標値	現況値
貸出密度（注 1）	全市民	3.6 冊	5.75 冊	4.6 冊（R6）
学校以外で読書をしない割合（注 2）	小学 6 年生 中学 3 年生	21.6% 43.2%	17.1%以下 34.5%以下	22.9%（R5） 39.8%（R5）
図書館に行かない割合（注 3）	小学 6 年生 中学 3 年生	31.9% 55.8%	22.5%以下 45.1%以下	34.9%（R5） 54.7%（R5）
学校以外での読書率（注 4）	小学生 中学生	－ －	95%以上継続 66.3%	92.4%（R6） 75.9%（R6）
絵本読み聞かせ日数（注 5）	園　児	12.9 日	12 日以上継続	－
ブックフェス来場者数	全市民	1,200 人	2,000 人	1,600 人（R6）

注1)　土岐市の市民 1 人当たりの貸出点数

注2)　学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日あたり全く読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）をしない割合。全国学力・学習状況調査結果（注 3 同じ）

注3)　昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために学校図書館や地域の図書館に行かない割合

注4)　1 か月間に読んだ本（教科書や参考書、漫画や雑誌等を除く）が 1 冊以上であった子どもたちの割合。土岐市読書活動に関するアンケート調査結果

注5)　1 か月間に絵本の読み聞かせを行った日数（園や図書館での読み聞かせ会の参加等も含む）

３　本計画の前提となる課題

第一次計画の取組の評価と指標の状況を踏まえ、本計画では以下の３つの課題に重点的に取り組みます。

（１）子どもの不読率の低減

第一次計画では、学校司書支援員による学校図書館の整備や電子図書館の導入に取り組み、小中学校の児童生徒の不読率の低減に努めましたが、小学生の指標では、目標値を達成できませんでした。

本計画では、引き続き不読率の低減に向け、学校図書館に通う児童生徒を増やす取り組み、学校の授業での図書館資料を活用した取り組み等の充実のほか、就学前から、家庭での読み聞かせの習慣化を図る取り組みを進めます。

（２）住んでいる地域、生活の状況による読書機会の差の解消

第一次計画では、移動図書館車の市内巡回や電子図書館の導入に取り組みましたが、市図書館における貸出密度は、第一次計画の策定時と変わらず、市図書館から遠い地域ほど低い状況でした。

本計画では、引き続き、子ども、高齢者、障がい者、介護中の方、市図書館から遠方の方等、年齢や住んでいる地域、生活の状況によって読書機会に差が生じない環境づくりに向け、移動図書館車の巡回拠点の充実を図るほか、地域や民間機関と連携し、公共施設のほか、地域のイベント、民間施設においても本と出会える取り組みを進めます。

（３）読書活動による市民の交流の促進

第一次計画では、本が好きな市民の自主的な活動の支援や、本を通じた市民コミュニティの広がりの支援について大きな進展がありませんでした。本計画では、市民が読書活動を通して生きがいを持ち、生涯にわたって生き生きと暮らせるよう、読書活動を通して市民が交流する機会の創出、市民の自主的な読書グループ活動への支援等を進めます。

第３部　基本方針

１　基本方針

（１）読書に親しむ環境づくり

乳幼児期に子どもたちが多くの本と出会い、学童期以降も、楽しみながら読書を続けるとともに、読書から学ぶ力を身に付けることができるよう、発達段階に合わせた読書環境づくりを推進します。推進にあたっては、子どもが主体的に読書活動を行えるよう、子どもたちの意見を取り組みに反映させる等、子どもの視点に立った検討を行います。

また、生涯にわたり読書を楽しみ、本から学び続けることができるよう、生活の状況によって読書機会に差が生じない環境づくりを推進します。

（２）読書でつながる仲間づくり

読書を通して他者と交流したり、読書を楽しむコミュニティで活動したりすることは、Well-Being で幸せに暮らし続けることにつながります。

市民が読書活動を通して仲間と出会い、交流したり、主体的な活動に取り組んだりできるよう支援するとともに、地域や民間機関と連携し読書活動拠点の充実を図ります。

理解を深めるための Topic 1

『何のための読書なのか』

東海学院大学教授　アンドリュー・デュアー

本を読むと、何かいいことがありますか？
読むことはためになる、とよく言われますが、本当にそうなんですか？
読書の恵みというのは実に多様です。

①子どもの**語彙**が大幅に増える。
②**言葉と読解力**が発達する。
③**学力**が高まる。
④**想像力と集中力**が鍛えられる。
⑤**性格**が人の気持ちを考えるように形成される。
⑥**感情や感性**が発達する。
⑦**社会性**が発達する。
⑧人の気持ちが読める**共感力**が成熟する。
⑨**文脈理解力**が鍛えられる。
⑩**経験の拡張**ができる。
⑪**悩みを解消する力**が身につく。
⑫**進路のヒント**が得られる。
⑬親などとの**絆**が深まる。
⑭時間を**楽しく**過ごせる

◎つづきは、19 ページへ「本を読む子どもをどうやって育てますか？」

Topic 2

『読書活動のはじまり　読み聞かせ』

土岐市図書館長　神戸牧子

読書活動のはじまりといえる、絵本の読み聞かせは、乳幼児との良好な信頼関係を築く上で必要といわれている三要素、**「スキンシップ」**、**「アイコンタクト」**、そして**「言葉かけ」**のすべてを満たす行為で、**子どもの情緒の安定や、自己肯定感を育てる礎にもなります。**

◎つづきは、20 ページへ

Topic 3

『Well-Being（幸福）と読書』

フルライトスペース株式会社特別研究員　豊田高広

読書は、幸福の預金です。

幸福になる秘訣ってなんでしょう。私は、自分が幸福だったときの記憶を、いつでも思い出せるようにしておくことだと思います。そして、**読書は幸福な記憶の「貯金」を増やす最高の方法です。**

小説家の池澤夏樹氏は書いています。

＜書物というものの最高の機能は、幸福感を伝えることだ。[2]＞

おかげで読書は、読むことで直接味わえる幸福に加えて、間接的にも人生全体の幸福を増幅してくれます。**どんなときに幸福を感じるか、**幸福感とはどんな心の状態か、**成功と幸福はどこが似ていてでどこが違うか**といった、**幸福をめぐる知恵も、私は読書によって学びました。**

◎つづきは、21 ページへ「幸福になるための対話のツールとしての本」

2　星野道夫『旅をする木』文春文庫の解説から引用

2　計画の体系

上記の現状と課題を踏まえ、読書活動を推進するため、次の 2 つの基本方針を定めて下記の体系で取り組みます。

ビジョン　　読書が育てるまちの未来

基本理念

読書活動の推進により、まちの文化や未来を担う人材の育成、生涯にわたり Well-Being で幸せに暮らし続けられるまちの形成を目指します。

基本方針 1　読書に親しむ環境づくり

- 施策 1　乳幼児期の本と出会える環境づくり
- 施策 2　児童生徒の本から学ぶ力の育成、読書の習慣化を進める環境づくり
- 施策 3　生涯にわたり読書に親しむ環境づくり

基本方針 2　読書でつながる仲間づくり

- 施策 4　市民の読書コミュニティづくりの推進
- 施策 5　地域・民間機関と連携した読書活動の推進

第４部　読書活動の推進方策

基本方針１　読書に親しむ環境づくり

施策１　乳幼児期の本と出会える環境づくり

取組の方向性	主な取組内容	実施機関
（１）子どもたちが本と出会い、読書習慣を持つきっかけづくりを行います。	①ブックスタート事業[3]を実施 ②ぶっくんノート事業[4]を実施 ③市主催事業等と連携した読書活動の啓発・情報提供	図書館
（２）幼稚園・こども園等で絵本や物語に親しむ活動を推進します。	①よみきかせの実施 ②絵本貸出の奨励 ③保護者への読書活動の啓発 ④移動図書館車読書体験の実施 ⑤市図書館見学の実施	①～⑤幼稚園・こども園等 ③～⑤図書館

※下線は重点項目（以下同じ）

施策２　児童生徒の本から学ぶ力の育成、読書の習慣化を進める環境づくり

取組の方向性	主な取組内容	実施機関
（１）図書資料の選択、活用する能力の育成を図ります。	①図書館資料を活用した授業の実施 ②情報の収集・選択・活用能力の育成	学校・教育研究所

3　乳幼児期から家庭で読書に親しめるよう、4 か月健診時に、4 か月児とその保護者へブックスタートパック（絵本 2 冊と手提げバッグ等のセット）を配布する事業

4　家庭での読書の取り組みを継続できるよう、3 歳児健診時に、ぶっくんノート（読書通帳）を配布する事業。本を読んだり、市図書館のイベントに参加したりすることでポイントを貯めてもらい、ポイントが貯まった子へ絵本を 1 冊プレゼントする。

取組の方向性	主な取組内容	実施機関
（２）読書の習慣化のための機会の提供や取り組みを進めます。	①学校司書支援員による学校図書館の環境整備、活用の推進 ②図書委員、子ども司書[5]の活動の推進 ③学校図書館イベント、児童生徒のニーズを反映した選書の実施 ④電子図書館の利用方法の周知 ⑤家読[6]の推進 ⑥保護者への読書活動の啓発 ⑦移動図書館車の巡回 ⑧市図書館見学の実施 ⑨学校と図書館が連携した職員研修の実施等による取り組みの充実	①～⑨学校 ①⑨教育研究所 ⑦～⑨図書館
（３）特別な配慮が必要な子どもや日本語指導が必要な子ども等、多様な子どもたちの読書活動の支援を進めます。	①福祉施設、特別支援学校等と連携した読書環境の充実 ②移動図書館車の教育支援センター等への巡回	教育支援センター 学校 図書館

5　子どもの読書推進リーダー。読書好きな子どもたちが、司書の仕事を学び、友達や家族、地域、学校で、読書活動の楽しさや素晴らしさを広める。

6　うちどく。「家庭ふれあい読書」の略語。家族で本をコミュニケーションツールとして触れ合う時間を過ごし、互いを理解し、絆を深める取り組み。

施策３　生涯にわたり読書に親しむ環境づくり

取組の方向性	主な取組内容	実施機関
（１）市民が読書を楽しみ、互いに共有できる機会を提供します。	①ブックフェスの実施 ②市図書館等でのワークショップ、よみきかせ会、テーマ展示等の実施	図書館
（２）市図書館から遠方にお住まいの方、生活の状況により来館が困難な方が図書館サービスを利用できる環境づくりを進めます。	①移動図書館車の地域拠点、福祉施設等への巡回 ②移動図書館車巡回時のよみきかせ会等の実施 ③電子図書館の利用促進	図書館
（３）障がい者や高齢者等「読書が困難な人」が利用しやすい書籍や図書館サービスの充実を図ります。	①郵送貸出の実施 ②電子図書館の文字拡大機能や読み上げ機能があるコンテンツの充実 ③大活字本、点字書籍の充実	図書館
（４）読書活動の啓発、読書活動に関する取り組みの発信を実施機関等が連携して進めます。	①市主催事業と連携した大人向けの読書活動の啓発 ②読書の記録や本を巡る対話等、読書活動の習慣化に向けた取り組みとＩＣＴ活用の検討 ③ＳＮＳ等を活用した情報発信	図書館

（５）身近な場所で本と出会えるよう読書活動拠点の充実を図ります。	①地域イベント、民間施設への移動図書館車巡回等の検討 ②公共施設、民間施設への市図書館除籍本等の設置の検討 ③地域の方々等が運営するまちライブラリー[7]や巣箱図書館[8]の導入支援	図書館

7　地域住民等がまちの特定の場所に本棚を設置し、本を持ち寄り、貸出したり閲覧したりしてもらう取り組み。場所も運営方法も本棚を設置する人達が決める。持ち寄った本に寄贈者からのメッセージを添えたり、次に読んだ人が感想を連ねたりすることでコミュニティが創出される取り組み。

8　巣箱のような本の貸出ポストを作り地域住民への読書推進活動を行う“Little Free Library”（リトル フリー ライブラリー）と呼ばれる運動。個人宅や公共施設等に設置し、自由な本の貸出を行う。

基本方針２　読書でつながる仲間づくり

施策４　市民の読書コミュニティづくりの推進

取組の方向性	主な取組内容	実施機関
（１）子どもたちの読書による交流やグループ活動を支援します。	①読書好きな小中学生による読書っこクラブ[9]の活動支援 ②子ども司書の育成、活動支援	図書館
（２）市民が主体的に行う読書に関するグループ活動を支援します。	①読書会やブックスワップ[10]等、本を通じた市民のコミュニティづくりの支援 ②地域の方々等が運営するまちライブラリーや巣箱図書館の導入支援（再掲） ③図書館運営や子どもの読書活動を支えるボランティアの育成	図書館

施策５　　地域・民間機関と連携した読書活動の推進

取組の方向性	主な取組内容	実施機関
（１）地域・民間機関と連携し、読書機会の創出を図ります。	①地域イベント、民間施設への移動図書館車巡回等の検討（再掲） ②公共施設、民間施設への市図書館除籍本等の設置の検討（再掲）	図書館

9　市図書館が運営する読書が好きな小中学生によるクラブで、月１回程度の活動により読書の交流を図っている。

10　自主運営による本の交換、譲渡等の活動。コミュニケーションツールとしても注目されている。

第５部　計画の実施・検証

1　計画の進行管理

以下の４つの指標により、市民の読書活動の状況を把握しながら推進します。

項目	対象	現況値	目標値
家庭で週３日以上読み聞かせしてもらっている園児の割合（注１）	３歳児		未実施家庭を5%低減
子どもの不読率（注２）	小学４～６年生 中学生	8.1% 24.1%	7.9% 23.4%
市民の不読率（注３）	16歳以上の市民		全国値より低減
自分が望む読書活動ができていると感じている人の割合（注４）	16歳以上の市民		未達成者を2.5%低減

注1）　絵本を１冊程度読み聞かせした日を１日とする。

注2）　１カ月の間に本（教科書・学習参考書・漫画・雑誌やふろくを除く。電子書籍（情報機器のディスプレイで読む本）は含む。）を１冊も読まない児童・生徒の割合

注3）　１カ月の間に本（雑誌や漫画は除く。電子書籍（情報機器のディスプレイで読む本）は含む。）を１冊も読まない市民の割合

注4）　読書活動とは、読書、図書館サービスの利用、読書イベントへの参加、読書グループ活動等をいう。

※現況値が未記載の指標は、令和７年度中に調査し、目標値とともに記載する。

2　実施体制

本計画は、市図書館、学校、幼稚園・こども園等各機関において主体的に推進するほか、関係機関や市役所関係部署と連携して実施します。

3　検証

本計画の実施状況の検証を毎年行い、適宜改善します。

4　見直し

本計画は必要に応じ、適宜見直しを行います。

資料

- 理解を深めるための Topic

1『何のための読書なのか』 東海学院大学教授　アンドリュー・デュアー

2『読書活動のはじまり 読み聞かせ』 土岐市図書館長　神戸牧子

3『Well-Being（幸福）と読書』 フルライトスペース株式会社特別研究員　豊田高広

- 研究論文

『読書の効果の検証』　東海学院大学教授　アンドリュー・デュアー

Topic 1『何のための読書なのか』

東海学院大学教授　アンドリュー・デュアー

本を読むと、何かいいことがありますか？

読むことはためになる、とよく言われますが、本当にそうなんですか？

読書の恵みというのは実に多様です。いくつかの例を挙げれば、①子どもの**語彙**が大幅に増える。②**言葉と読解力**が発達する。③**学力**が高まる。④**想像力と集中力**が鍛えられる。⑤**性格**が人の気持ちを考えるように形成される。⑥**感情や感性**が発達する。⑦**社会性**が発達する。⑧人の気持ちが読める**共感力**が成熟する。⑨**文脈理解力**が鍛えられる。⑩**経験の拡張**ができる。⑪**悩みを解消する力**が身につく。⑫**進路のヒント**が得られる。⑬親などとの**絆**が深まる。⑭時間を**楽しく**過ごせる、などがあります。

語彙と表現力を増やすには、読書が極めて効果的です。とくに、子どものころの読書は言葉の発達に非常に重要です。**日常会話やテレビで出会う単語と表現はかなり限られています**が、本を読むとその幅が飛躍的に増えます。学校では読むことが学習の基礎となっているので、**就学する前に語彙を増やさないと、必要な学びの土台ができない**まま、後れが生じてしまいます。

また、物語をたくさん読む人は登場する人の身になって、様々な感情を疑似的に経験し、**人の心の作用をよく理解できるようになります**。自分の生活で体験できないことを、本を通して体験できます。それは、**疑似体験であっても、脳の処理の中で本物の体験と実質的にあまり変わらない**からです。人情、感性、感受性、社会性、協調性、人の動機と気持ちを読み取る力などは、体験の種類と数で高まるのであれば、読書は近道になります。

最近、**若い人はモノを買うよりも、体験を買いたがる**のは、モノはいずれなくなるが、**感動や体験の記憶は一生残る**からだといいます。読書を通して、より多くの冒険や旅などができます。**読書は疑似体験であっても、想像力を使った分、感動の記憶は本物に勝るとも劣らない**ものです。

しかし、テレビやスマホなどに夢中な子どもたちを放っておけない状況になりつつあるなか、**本を読む子どもをどうやって育てますか？**まず、**本のある環境を作る**ことから始めます。子どもたちが本に興味を持つには、大人のよい見本が必要です。本のない家では、子どもが読書をしたくてもできません。本を読まない親に「読みなさい」といわれても、説得力があまりありません。**自分の楽しく読んでいる姿を子どもに見せる**ことが最も効果的でしょう。

小さい子どもは素直に本が好きだが、高学年や中学生になると友達に見せる姿が気になるので、読むことが格好いいと思わなければ、しないかもしれません。しかし、友達が楽しくやっていることにひかれる心理を活かせば、読書を流行させることができるはずです。**子ども同士で読書の楽しさを伝え合える環境を作りましょう。**

家や図書館で過ごした読書の時間は一生の財産になると思います。授業とか、会社の会議とか、毎日の生活で、「あ、それは分かる。図書館で読んだことがある」という日が来るに違いありません。

さて、読書のよさがこんなにあるなら、みんなを誘って、読んでみよう！

Topic 2『読書活動のはじまり 読み聞かせ』

土岐市図書館長　神戸牧子

読書活動のはじまりといえる、絵本の読み聞かせは、乳幼児との良好な信頼関係を築く上で必要といわれている三要素、**「スキンシップ」、「アイコンタクト」、そして「言葉かけ」のすべてを満たす**行為で、**子どもの情緒の安定や、自己肯定感を育てる礎**にもなります。

また、脳科学では、読み聞かせしてもらった子どもの脳は、感情や意欲をつかさどり、本能に関係する大脳辺縁系が活性化することが分かっています。この分野が発達すると、さまざまな感情を脳が感じ取るだけでなく、意欲や道徳感につながる動機付けがされるということです。

読み聞かせをすると、子どもは「お話の世界」があることを認知します。そして、出会った絵本の美しい言葉や豊かな語彙に言語能力を育まれるとともに、ページとページの間の絵や場面など、そこに**書き込まれていないものまで想像する力も身につけていきます**。

現実世界に加え、本を通じて疑似体験することを知った子どもは、生き生きと、そしてしなやかに、時には力強く、時には静かに人生を生き抜く力のかけらを手に入れながら、**言語能力と想像力をたずさえて、その先の読書活動に足を踏み入れていく**のです。

参考：
『小冊子 絵本のある子育て ㈱童話館』
『子育てハッピーアドバイス ようこそ初孫の巻 明橋大二・吉崎達郎 1 万年堂出版』
「読み聞かせ」苦手な子にもラクにできる 7 つの方法 加藤紀子 ダイヤモンドオンライン

Topic 3『Well-Being（幸福）と読書』

フルライトスペース株式会社特別研究員　豊田高広

読書は、幸福の預金です。

幸福になる秘訣ってなんでしょう。私は、自分が幸福だったときの記憶を、いつでも思い出せるようにしておくことだと思います。そして、**読書は幸福な記憶の「貯金」を増やす最高の方法です。**

小説家の池澤夏樹氏は書いています。

＜書物というものの最高の機能は、幸福感を伝えることだ。[2]＞

おかげで読書は、読むことで直接味わえる幸福に加えて、間接的にも人生全体の幸福を増幅してくれます。**どんなときに幸福を感じるか、**幸福感とはどんな心の状態か、**成功と幸福はどこが似ていてでどこが違うか**といった、**幸福をめぐる知恵も、私は読書によって学びました。**

子どもの頃には分からないけれど、**大人になって分かる。そんな幸福があることも、読書によって知りました。**

十代の私は、昔の欧米の小説を好んで読みました。そこには、主人公の老境が描かれることもよくありました。年老いた主人公が幸福なのはなぜか。腑に落ちませんでした。能力や財産や、愛する人まで失って死を迎えようとしているのですから。でも、６０歳を過ぎた今は分かります。**自分の人生を最期に丸ごと受け入れる幸福を、私はあの小説から学んだのです。**

誰もが自分の幸福を求めて生きています。でも、**幸福も不幸も人それぞれ。そのことを理解するためにも読書は役に立ちます。**心底お互いの幸福を願っている人同士であっても、**相手にとって何が幸福か理解するのはとても難しい。その困難さを知っている**だけで、共に幸福になる可能性は高まるはずです。

お互いの利害や価値観の違いを前提としながら、共通点を見出すための言葉のやり取りを「対話」といいます。**いろんな違いを抱えた者同士が共に幸福になるために、欠かせない営みです。**そして、**本は対話のための格好のツールなのです。**相手の幸福に対し疑問や異論を差しはさむのは難しくても、本に書かれている幸福についてなら言いやすいですよね。対話の仲間に人間以外の自然を加えてもいいでしょう。日本には、俳句や和歌のように自然と対話する伝統がありますから。自分が読んだ本について生成ＡＩと対話するのも意外と楽しいものです。**読書に加えて、本を使った対話の習慣が地域の隅々まで広がれば、まちの幸福度も高まるに違いありません。**

2　星野道夫『旅をする木』文春文庫の解説から引用

読書の効果の検証

東海学院大学教授　アンドリュー・デュアー

はじめに

読書は趣味の中でも，イメージは非常によく，本をたくさん読む子どもは知的で勉強ができると思われています。そのため，読むことは学校などで子どもに無条件に勧められる活動の一つです。毎年実施される数々の読書調査では，読書率は子どもの生活と教育の成果を評価する指標としても使われています。したがって，子どもの読書を推進することは国の政策になっています。さらに，読書が子どもの健全な発達に欠かせないものだと考える読書推進団体は多く，読み聞かせなどを促進する本も次々に出版されています。

本を読むことによって，多くの効果が生まれるともいわれています。期待される主な効果を挙げれば，①子どもの語彙が大幅に増えること，②言葉と読解力が発達すること，③学力が高まること，④想像力と集中力が鍛えられること，⑤性格が形成されること，⑥感情や感性が発達すること，⑦社会性が発達すること，⑧人の気持ちが読める共感力が成熟すること，⑨文脈理解力が鍛えられること，⑩経験の拡張ができること，⑪悩みを解消する力が身につくこと，⑫進路のヒントが得られること，⑬親などとの絆が深まること，⑭時間を楽しく過ごせることなど，実に多様です。

多くの司書や教育者はこのメリットを認識していますし，読書の必要性を示すものとしてとらえています。しかし，これらのメリットを主張するための裏づけがあるのでしょうか？　主観的な理由を挙げることが多いようです。たとえば，学力と書く力は読めば読むほど自ずと向上する，という断片的な説明をよく聞きます。多くの読書論は著者の個人的な読書経験に基づく感想文のようなものであって，心理学の研究に基づく体系的な理論ではありません。実際問題として，読書量と個人の学力向上などとの因果関係をはっきりと示すことは非常に困難です。読者と不読者の学力を比較する研究では，統計上では学力と読書量が比例することがわかったとしても，個人の推移を長時間にわたる縦断的調査で調べない限り，個人の読書がその人の学力を伸ばす要因になっているか否か断定できません。よく読む人の学力が高いのは，そもそも学力の高い人だからこそ読書が好きだという可能性も否定できません。また，不読者が本を読み始めると学力は必ず上がることを感覚的に期待できても，横断的調査だけではそれを証明できませんし，バイアスが入る恐れもあります。そのため，読書の量および好みの度合いだけでは，読書の効果が証明することが難しいのです。

そこで本研究では，読書心理学の見識と，経済協力開発機構（OECD）が実施している生徒の学力到達度調査（PISA）の統計データなどを中心に，読書が語彙や語学力，学力，想像力と性格の発達，感性，社会性，そして精神衛生にもたらす影響など，さまざまな面からエビデンス評価を行い，読書が子どもの発達に与える影響について考察します。

①　語彙

読めば読むほど，出会う単語の数と種類が多くなります。子どもは毎日，さまざまな場面で新しい単語に会っていますが，日常生活を言葉の泉に例えるなら，本は巨大な噴水です。繰り返しが多い日ごろの会話に比べれば，本を通じて出会う単語はかなりバラエティーに富んでいます。Cunningham らの研究[1)]は，新しい単語に出会

うチャンスを調べています。まず，英単語を頻度順に並べた表を使って，さまざまな英語の読み物の単語ランキングの平均値を調査しました。そして，それを読む人はどのくらいめずらしい単語に触れるかを分析しました。その結果，幼児向けの本の単語ランキングの平均値は 627 でした。それに比べ，日常会話とテレビの単語ランキングの平均値は 400〜600 の間となっています。絵本では利用頻度の高い単語は多いけれど，めずらしい単語もかなり混ざっていることがわかります。ちなみに，新聞は 1,169，科学論文の要旨は 4,389 でした。したがって，会話とテレビの言葉にしか触れていない子どもは，めずらしい単語に出会う機会が比較的少ないと言えます。

考えてみれば，日常会話の大部分は同じことの繰り返しです。「早く起きて！　顔を洗った？忘れ物がないか？」というかけ声が多いでしょう。子ども向けのテレビも，日常会話的な内容が多いものです。子どもの日常生活には，新鮮な話はそれほどたくさんないかもしれません。しかし，本を読めば，出会う場面の幅がもっと広く，言葉の数と種類が日常生活に比べて多いことがわかります。Cunningham らの研究から読み取れることは，読まない子は児童書に使われている単語にめったに触れていないことです。もちろん，めずらしい単語に出会うチャンスがないというわけではありませんが，本を読んだり，読み聞かせを受けたりする子どもに比べて，新しい単語に出会うペースはかなり遅くなります。本を読めば読むほど，より多くの単語に出会い，語彙を増やす機会に恵まれます。

家に本があるだけでも，子どもの語彙に影響します。学力調査の成績と家庭にある本の数が比例していることを示している研究があります[2)]。経済的状況などのバイアスを除いても，本が多い家庭で育った子どもは，テストの点数が比較的に高い傾向があります。その差の原因として，本のある家庭の子どもは，日常会話での話題が多様になる傾向があり，より多くの言葉に出会うチャンスがあるからだと思われています。冊数は 200 冊より多くても効果の変動はあまりありませんが，80 冊より少ないとその差がかなり大きくなります。その本を実際に読んでいなくても，本のある家庭での会話は比較的知的で，さまざまな言葉やアイデアが飛び交っている可能性が高いと考えられます。逆に，本のない家庭の子どもは語彙を延ばす機会に欠けています。したがって，本の存在と好成績は統計上，優位に関係しています。

脳科学者のメアリアン・ウルフは「本がまったく手に入らないとなると，この幼児期に習得していなければならないはずの単語の知識と世界に関する知識に壊滅的な影響がおよぶ」ことを主張しています[3)]。

さらに，学校での授業の理解も語学力に依存しています。そのため，子どもが就学するまでに語彙を増やさないと，学習に影響が出ます。ウルフによれば，「語彙発達とその後の読解力とが相関しているために，幼児期の語彙増加の後れは，不運な一事象としてとらえられた場合に思われるより，はるかに不吉な前兆である」[4)]。その後れを取り戻すことはたいへん難しい，とウルフや McCain などのデータは示しています。時間がたてばたつほど，語彙の差は広がり続けます。新しい単語に出会わない生活を改善しない限り，いつまでも語彙が増えません。毎日 25 分ほど本を読んでいる子どもは，まったく読まない子どもに比べて，1 年間で 200 万語ほど多く読むことになります。幼児期の読書と読み聞かせは，類似の効果をもたらします。したがって，読書習慣の早期取得で語彙発達の後れを避けることができると推察されます。

② 言葉の発達・読解力

子どもは日常会話やテレビ鑑賞だけでは，口語にしか出会うチャンスがありません。日ごろの会話やテレビ番組で使っている語彙は少ないだけではなく，表現の構造も比較的単調です。しかし，本は違います。会話にはめったに出てこない文学的あるいは詩的表現は，本では豊富に使われています。それに触れる子どもは，口語にない複雑な文章構成を理解できるようになりますし，豊かな表現や類推的イメージを使いこなせるようになります。読めば読むほど，身につけて自分のものにできる表現は増えていきます。

これは，さらに思考力と発想力につながっていきます。

ウルフは，文学的表現の使い方の研究について述べています。表現力を比較するために，2 年間読み聞かせを頻繁に受けた子ども群と，受けていない子ども群に，話を創作するタスクをさせました。それぞれ個人的な出来事を述べて，人形に絵本を読み上げるふりをさせました。そして，各グループが使った語彙と表現を分析しました。すると，読み聞かせを受けた群は文学的な表現を多用し，「洗練された統語形式や長い言い回し，関係詞節まで使って見せた」というのです[5]。読み聞かせがなかった群では，これらの表現はほとんど見られませんでした。文学的な単語と表現について，日常会話から習う可能性は低いことがわかりました。

さらに，頻繁に読書している子どもは類推的な表現と思考を覚えます。絵本とおとぎ話には，たとえば，頬をバラにたとえたり，髪を絹にたとえたりする，比較を要求する表現が出てきます。子どもは話を理解するためには，その構造を解かなければなりません。

「このプロセスで，子どもたちは語彙スキルを獲得するだけではなく，認知的に複雑な類推の使い方も身につける。類推スキルは，年齢を問わず，ほとんど表面に現れないが，きわめて重要な知能の発達の一側面である。」[6]

しかし，類推的な表現は日常会話でめったに使われないので，読書でしか取得できないことがわかります。そのような表現が本当に必要になるのは，子どもがもっと大きくなってから，中学校や高校の問題を読解するときや，仕事の中で説明したり説得したりしようとするときです。したがって，平叙文しか言えない人は，仕事と人間関係で苦労します。

読書心理学者の阪本一郎は，「読む能力の学習の効果は，もっと広い（書く・聞く・話すをふくむ）言語の能力の発達に転移する」[7]と主張しています。読み聞かせと読書は，子どもに会話だけでは得られない表現と語彙を多く提供し，コミュニケーション能力を向上させます。

学習到達度調査（PISA）は，参加国の 15 歳の学生の数学的能力と読解力を測定し，分析しています。さらに，学生の読書傾向や家庭事情などについてもあわせて調べているので，個人的な読書環境や読書量を成績と比較することが可能です。その結果，成績が読書量に比例することがわかりました。小説またはノンフィクションの本を，月数回あるいは週数回読んだ学生は，読解力の試験で高成績を得る率が特に高かった[8]，ということがわかりました。しかも，平均して 1.5 学年ほどの差があったことから，読書の効果が鮮明に表れています。

しかし逆に，不読者は読むのに慣れていないため，突然の読解力のテストでは単語を読むだけで力尽き，全体の意味を分析するまで余裕がありません。

「Lack of exposure and practice on the part of the less-skilled reader delays the development of

automaticity and speed at the word recognition level. Slow, capacity-draining word recognition processes require cognitive resources that should be allocated to comprehension. Thus, reading for meaning is hindered……」[9]

不読者は単語の認知と解読にエネルギーを費やさなければなりません。意味の理解に必要な余裕がないので，読解力が落ちる，ということが報告されています。

簡単に言えば，読解力の成績は練習の成果を表しています。読解力を上げるには，頻繁に読書をし，語彙と表現力を増やすことが効果的です。

③　学力

学ぶ力をのばすためには，読書で鍛えた語学力の土台の上に，本から得た世界に関する知識を重ねていくことが有効です。カナダの教育学者である McCain と Mustard の調査によれば，幼児期の読み聞かせは脳に強力な刺激を与え，将来の学習に必要な発達の土台を築きます[10]。また，幼児期の語彙と行動は「readiness to learn」の指標になり，学校での学力，算数の成績，そして非行傾向など社会性の目安になります[11]。

PISA の 2009 年調査は，McCain らの結果を裏づけています。幼児期にほぼ毎日，あるいは週数回の読み聞かせ体験があった 15 歳の子どもの成績は，めったに読み聞かせがなかった 15 歳の子どもに比べて 25 点高い成績，すなわち 0.5 学年相当の差がありました。同じ家庭経済レベルの生徒を縦断的に比較しても，14 点ほどの差があり，学力への読書の効果がはっきり出ています[12]。

幼児期に限らず，15 歳になってもなお読書している子どもたちは PISA のスコアを大きく伸ばしています。スコアの低い生徒と高い生徒を比較すると，決定的な違いとして，好んで読書しているか否かという要因が浮上しました。ほぼ毎日，趣味として読書している生徒は，しない生徒より 1.5 学年に相当する差がついていました。この学力の差は大人になっても依然として大きいままです。

「Students who are highly engaged in a wide range of reading activities are more likely than other students to be effective learners and to perform well at school. Research also documents a strong link between reading practices, motivation and proficiency among adults.」[13]

つまり，広く読んでいる人は，より効果的に学習できるし，成績がより高くなります。大人でも，読書習慣は学習意欲と学力につながっています。

さらに，山崎博敏の研究によれば，「朝の読書」という授業開始前 10 分ほどの自由読書をさせている小学校では，学級単位での学力向上が見られています。この研究では家庭教育などの他の要因についても検証しましたので，説得力のあるデータといえます。個人レベルで読書の効果は確認できませんが，全体的な向上が確認されています[14]。

もちろん，多読するだけでは学力は伸びません。むしろ，よい学習習慣がついていないまま本をたくさん読んでも，勉強していない分，学力が劣ることもあります。したがって，効果的な読む習慣を身につける必要があります[15]。しかし，幼児期から読書を親子で始めれば，効果的な読書スキルが簡単に取得できます。さらに，Cunningham らの研究によれば，読書を幼児期の早い段階から始め，長く続けている子どもの場合，先天的な知力が多少低くても，読書で得た語彙と一般知識は知力を補い，学力を高めます。つまり，読むことによって，子どもの頭がよくなります[16]。

また，読書が脳の学習する準備として効果的

だということは，天道佐津子らの研究で明らかになっています。

「音読が脳のウォーミングアップとなり，音読後に前頭前野の能力を向上させること（潜在能力を引きだすこと）が可能であることが示唆された。始業前や事前に読書活動をおこなわせることで，子どもたちの潜在能力を引きだした状態で毎日の学習を進めることができると考えられる。」

すなわち，朝の読書や，休憩時間での自由読書は子どもたちを落ち着かせ，学習にふさわしい姿勢を促進することに役立ちます[17]。

④　想像力

読書を推進する本の多くは，想像力について触れています。読むことによって想像力が豊かになる，と主張する著者も少なくありません。しかし，想像力は非常に抽象的なものであり，尺度がありませんので，読書が想像力をどのように変化させているのか，読むことによってどの程度豊かになっているのかなど，調査することはきわめて困難です。

しかし，間接的な証拠はあります。

PISA の 2009 年調査において，小説でもノンフィクションでも読書をしている生徒の読解力のスコアは，不読者に比べ高い傾向にありました。さらに興味深いことに，小説の読者はノンフィクションの読者よりも読解力のスコアがさらに高かったのです[18]。おそらく，小説を読むにはノンフィクションよりも想像力を必要としますので，小説の読者は想像力が発達し，結果として読解力が高まったと，結果から推測できます。言語脳科学者である酒井邦嘉は，「本では，どうしても足らない情報を想像力で補うことによって，その人に合った，自然で個性的な技が磨かれたのだ」[19]と，この現象を表現しています。PISA のスコアがその表れです。

文章から人の動機や精神状態などを読み取るためには，想像力を働かさなければなりません。PISA などの読解力のテストでは，読む文章に対して，動機を聞いたり話の進行を予測させたりする質問内容が多いため，スコアを伸ばすためには豊かな想像力，特に読書で鍛えられた想像力が必須だということが言えます。

文章では，口語より複雑な構成を用いることが多くあります。文章を読むためには，多くの情報を吸い上げ，頭の中で整理する必要があります。この作業をするには，集中力が必要です。集中力は先天的なものではなく，ADHD（注意欠如・多動症）などの障害がない限り練習で鍛えることができます。しかし，現代社会では情報が散乱しており，噛みくだかれていることが多いので，長く集中する機会も必要性も少なくなっています。ウルフは 2011 年のインタビューで次のように指摘しています。文学を教える教員の多くは，学生が長い文章を読む忍耐力を持たなくなっていることを嘆いています。オンライン情報の構造が，その一つの原因だといいます。

「The hyperlinked, text-messaging screen shapes the mind quite differently than the book, according to Wolf. “It pulls attention with such rapidity it doesn’t allow the kind of deep, focused attention that reading a book 10 years ago invited,”she says.“It invites constant change of attention, it invites multitasking. It invites, in other words, a kind of triage of attention.”」[20]

画面上で小刻みになっている情報は，目をあちらこちらへと導くため，内容を読み取るために必要な深い集中が生まれてきません。脳は見る場面の選択に多くのエネルギーを費やすので，読解に回すべきエネルギーが足りません。

ウルフは同じ記事でさらに，集中力の低下を

指摘しています。本の中身に集中して複雑なイメージと文章構成を解き，意味を読み取ることのできない人は，はたして人生の複雑さに耐えられるのか，とウルフは危惧しています。読書で鍛えた集中力は，人生のさまざまな場面を乗り越えるために必要だと言います。

われわれは毎日，さまざまな人とかかわる中で，その人の表情だけではなく，行動や発言，そして今までの交際の記憶などを手がかりにして，動機や気分，目的，企み，考えていることなどを想像しなければなりません。これを巧みにできる「世渡り上手」な人は豊かな人生を営めますが，うまくできない鈍感な人はよく騙されます。小説や絵本の登場人物のすることを理解するために，まったく同じ想像力を使わなければなりません。したがって，読めば読むほど，想像力を使う機会が増えたり多様化したりしていきますので，その能力を鍛えることができます。そして，本で鍛えた想像力は実生活にも反映できるようになります[21]。

⑤　性格の形成

性格には先天的かつ不変の部分がありますが，教育や経験によって性格が変わることもあります。また，周囲の価値観から受ける影響で性格が形成されることもあります。読書を通して読者は幅の広い擬似体験を経験し，また自分の価値観と異なる価値観に気づかせられますので，性格が影響されることがあります。

阪本一郎はその過程について，

「文化的価値の体験はときに感動を呼ぶことがある。また文化的価値における洞察に関連して衝撃（shock）を味わうことがある。このような激しい情緒的興奮は，読者のパースナリティを変革（あるいは異常な強化を）する。あるいはまた読者がなんらかの要求不満（frustration）を懐いている場合，彼の心中にわだかまっている感情を浄化（catharsis）したりするなど，その異常な緊張を健全な方法で処理する適応の規制がはたらく。このようにして読書は読者のパースナリティの形成に変革的な効果をもたらす」[22]と述べています。

阪本がいう読書とは，絵本や小説のことを指しています。テーマによりますが，情報を体系的に紹介するノンフィクションの本は衝撃や情緒的興奮を起こすことが少ないので，すべての読書が性格に影響するわけではないとしています。しかし，絵本や小説はさまざまな性格の箱庭にもなり，読者の鏡にもなりますので，性格を自覚する材料にもなりうると推測されます。

⑥　感情と感性の発達

自分の感情はともかく，他人の感情を正確に読み取り，適切に反応することは日常生活に欠かせないスキルです。それを上手に行うためには，豊富な経験が必要です。子どもは幼児期に周囲の人をよく観察し，自分の行動に対する反応を見ることなどによって感情について学習します。しかし，穏やかな日常生活の中で経験する感情の種類は限られています。嫉妬や憎しみ，欲張りなど，日常的に感じない感情を覚えるためには，より幅広く感情を疑似体験する必要があります。それには読み聞かせや読書が有効です。

ウルフは子どもが物語から感情を読み取る過程について，次のように述べています。

「物語や本を通して，彼女はあらゆる感情を学び始めているのだ。物語と本は，彼女がそうした感情を自分自身でためしてみるための安全な場所となる。だとすれば，彼女の発達にも大いに役立っているはずである。ここで作用するのは，情動の発達と読字の相違関係だ。幼い子どもたちは読むという行為に触れることによって新しい

感情を体験することを学ぶ。それがひいては，より複雑な情動を理解するための心構えを与えてくれるわけだ。」[23]

（注意：ウルフは男女差別的表現を避けるために，「彼女」と「彼」という代名詞を話題ごとに交互に使っています。）

逆に，本を読まない人は感情に触れる体験がもっと狭いままです。米国の National Endowment for the Arts の研究報告によれば，不読者は読まないことによって，幅広い感情や見方へのアクセスを放棄しており，自分の文章コミュニケーション能力の発達を妨げています[24]。

⑦　社会性

子どもは周囲の人を観察して真似することを通して，文化や適切な習慣を覚えていきます。最初は観察できる範囲が狭く，場合によって家族に限られているかもしれません。しかし，学校に通い，職場に入り，次第に社会に進出していく中で，社会性を身につける必要性が高まっていきます。読み聞かせや読書は幼児の世界を広げ，登場人物の感情や考え方に触れさせるため，社会の観察と理解を促す効果があります。

阪本によれば，本や物語の読書は社会適応能力を養うことができます。「言語はパースナリティの社会的適応の道具である。（中略）したがって読書は，人間関係の安定，ひいては社会の一員としての生活の安定に寄与するのである。」[25]子どもは読み聞かせと読書の中で得た経験を内面化して，自分の生活で活かせるようになります。

さらに，「読書は，個人に文化的価値を体験させる効果がある。読書材料の多くは，そういう価値を担った内容を持っている。それを読むことによって，真偽・善悪・美醜等の価値判断の基準と能力とを与える。これらはわれわれの日常生活の中でも体験され，人格をみがきあげていくものであるが，読書はこれらを集約的に啓発する」[26]。つまり，社会性への王道があるとすれば，それは読書です。本は幅広い体験を集中的に提供してくれます。多くの場合，登場人物の行動が引き起こす反応との因果関係が明確になっているため，実生活より濃縮されています。

また，本をよく読む人は不読者より社会貢献活動やボランティアを積極的にする傾向があります[27]。これは読書の影響なのか，それともそもそも社会貢献活動を好む人は読書も好きなのか，判断しにくいところです。因果関係も交絡因子も多く不明ですが，本の登場人物をめぐる物語を読むことで，他者の立場を意識し理解できるようになります。不読者より読者は社会のニーズに気づくことが多い，と解釈できます。どちらにしても，不読者に比べると本を読む人の社会性のレベルは明らかに違います。

⑧　人の気持ちが読める共感力

子どもは周囲の人の感情や動機などに非常に敏感ですが，上述したように，日常生活では経験の範囲は狭くなりがちです。一方，物語や本では，幅広い性格と社会的立場の人に出会えます。さらに，物語の流れの中で，その人の考えていることや感情はどの結果につながるかなど，実体験より安全に観察することができます。

ウルフはその過程を次のように述べています。

「この小児期に，人間が学ぶことのできる最も重要な社会的スキル，情動的スキルおよび認知スキルのひとつに数えられる，他人の考え方を受け入れる能力の基盤が形成される。（中略）どちらの物語も，大勢の幼い子どもたちがお話を聞かせてもらったり，本を読んでもらったりすることを通して体験する思考と感情のよい例だ。

熱気球に乗って空を飛んだり，ウサギとの駆け比べに勝ったり，十二時の鐘が鳴るまで王子様と踊ったりすることはけっしてないだろうが，本の物語を通して，それがどんな感じをするものか知ることはできる。このプロセスで，時間を気にせずに自分の殻から足を踏み出し，『他人』のことを理解し始める。」[28)]

子どもは本を読まなくても，この過程をある程度経ることができますが，経験の量と質はともに読書する子どもに劣ってしまいますし，漏れや偏見が生まれる可能性は比較的高くなります。

⑨　文脈理解力

当たり前のことですが，世の中には異なる習慣や考え方が数多く混在しています。それらを全部知ることは不可能ですが，逆に自分と異なるものを排除する必要もありません。相手の立場に立ち，文脈の中で理解することが可能ですが，それには幅広い視野が前提条件です。読書は視野を広げ，さまざまな習慣や考え方を文脈の中で紹介します。

たとえば，阪本は異なる価値観を持っている人の伝記を読むときの例を紹介しています。

「個人は，読書材料から生産した意味を，彼個人の自我の思うままに個性化してよい。たとえばいまここに乃木大将の伝記があるとして，大将の最期の殉死の意味を，当時の忠君体制の中に生きた軍人の生き方として客観的に理解することは重要であるが，その意味を自分の自我領域との接点内で捕えるときは，それをナンセンスと解しようと，尊敬すべき行為と受け取ろうと，そのほかどのような意味に理解しようと，読む者の自由なのである。」[29)]

しかも，本を多く読むと，ほかの例と比較することもできるようになりますから，非常に些細な文脈理解が可能になります。

不読者は，文脈理解に必要な経験と語彙を身につけることが難しいと考えられます。自分の生きている時空しか知りませんので，ほかの時間と場所を想像する材料があまりありません。これは，「聞いたことや教わったことのない単語の数の問題というだけでは済まない。単語を聞いたことがなければ，概念を習得できない。統語(?)の形式にめぐり会ったことがなければ，物語のなかの出来事の関係に関する知識が乏しい。物語の形式をまったく知らなければ，推論や予測の能力に欠ける。文化の伝統と他人の気持ちを経験したことがなければ，他の人々が感じていることを十分理解することができないのである」[30)]。もちろん，文字のない文化では，語り部と物語はこの役割を果たしていますが，口頭文化では物語の数が限られ，読書の幅広さゆえの効果にはかないません。

⑩　経験の拡張

本の最大の目的は，著者の考えと経験を不特定多数の人に伝えることだと思われます。読むことによって，直接体験できないことを疑似体験できます。そうすることによって，読者は家にいながらも多様な経験を味わうことができます。

阪本いわく，これによって，「読書は個人の知的，経験的体制を豊かにする効果がある。ことに個人の現実の生活では，直接に経験できない特殊な情報をも，間接経験として際限なく個人に提供する。それによって個人のパースナリティの適応の範囲が，時間・空間を超越して拡大し，個人が現実に当面する適応障害においても，その問題を容易に解決する洞察の手がかりを準備させる。良い意味で『海千，山千』の人生経験の豊かな人物を作り，彼の現実の他の面での適応を健全に導くことになる」[31)]。

⑪　悩みを解消する力

若者の悩みの多くは，対人関係と自分のアイデンティティに対する不安から生まれます。本はさまざまな性格の人とその生き方や悩みを紹介するので，読書する子どもは自分の悩みに似ている参考になる例を探すことができます。登場人物を観察したり共感したりすることによって，自分のアイデンティティを自覚できるようになります。

キャサリン・ロスらは，次のように論じています。

「読書は，我々が誰であり，世界で我々がいるところはどこで，どうなるのか，理解するのを助けてくれる。さらに自己同一性の土台は，さまざまな社会構造や社会的規制に関連して，その時どきに自己を理解することにある。読書という文脈で架空の登場人物や世界と読者が作り出す関係は，多様で競合するアイデンティティを解釈する試みや探索を促進する。（中略）他者や他の経験について読むという活動は，ヤングアダルト読者が自分自身や，世界で自分が占める位置の変化を理解する一助となる。」[32)]

天道佐津子は，気持ちを落ち着かせてくれる「もとに戻れる」本の効果について述べています。

「ちょっとした争いごとや悩みごとがあっても，その『本』と向き合っていれば，それらの心の葛藤が自然にほぐれて，新しい明日を迎えることができるという『本』との出会いである。」[33)]

さまざまな本を読んでいると，子どもはその癒しの効果にも気づき，のちに読書をすることによって自分の気分をコントロールできるようになります。

アメリカの学校教員組合の研究では，読書は次のような効果があると報告しています。個人の読書とブッククラブ活動などは癒し効果があり，学習を支え，孤独を解消し，社会的地位を上げ，自信と自愛を高め，そして精神衛生をよくします。また，日ごろの悩みから逃避でき，ストレスを下げることも可能です。つまり，読書は安定した幸せな暮らしを営むために，たいへん有効な趣味です[34)]。

⑫　進路

読書は卒業後の進路にも影響しますので，若いころの読書は重要な投資にもなります。たとえば，National Endowment for the Arts の調査は，読解力が進路に大きく影響することを明らかにしています。企業は従業員に読む力と書く力を強く要求していますので，習慣的読書はよい仕事に導く可能性を控えています。

「Greater academic, professional, and civic benefits associated with high levels of leisure reading and reading comprehension.」[35)]

逆に，PISA の追跡調査のデータでは，15 歳の段階で読解力のスコアが低い生徒は，のちに比較的低い賃金を得ており，しかも失業する可能性が比較的に高い傾向が出ています[36)]。

もちろん，本さえ読めば明るい将来が自分のものになるとは限りません。しかし，語彙や語学力，学力，読解力，社会性などは，それぞれが若いころ培った読書の技術で鍛えられ，一生の糧になります。本を読む人は内的生活だけではなく，外的生活も豊かにできます。

⑬　親子の絆（読み聞かせの場合）

読み聞かせなど，ひざ元での読書や「家読」のような家族ぐるみの読書活動は，親子の絆と関係しますが，読むと絆が深まるという因果関係を証明することは困難です（実験しようとして

も，一部の子どもに読ませない状況をつくるのは，倫理的に問題でしょうね！)。しかし，読み聞かせなどは親子のふれあいを増やす格好の機会ですから，上述したほかの効果に加えて考えれば，行う価値はきわめて高いと思われます。

⑭　楽しみ

PISA のデータでは，楽しむために読書することは学力の向上と読解力の発達につながることが示されています。しかし同時に，娯楽のために読書する学生は年々少なくなっています。日本では，「読書よりおもしろいことがある」などという子どもは少なくありません。本を読む楽しさは読みながら十分に味わえますが，読み終えたときにピークに達します。ゲームなどに比べると楽しみはゆっくり高まってくるので，待たなければならない部分があります。しかし，後からくるご褒美を気長に待つこと自体も，たいへんよいことです。あの有名なマーシュマロ実験と同じように，ゲームなどの目の前の快楽に惑わされずに，後からくる読む楽しさを待てる忍耐力は，のちの人生に大いに役立つはずです。

天道佐津子いわく。「読書というものは，楽しみながら，前頭前野を鍛える効果ももちあわせているという，ひじょうに優れた娯楽であると考えられる。」[37)]

結論

読書が学力や読解力に及ぼす影響は，統計データで明らかです。読書で得た語彙が，本から読み取った感情の理解や疑似体験と組み合わさって，文章を理解する力につながります。また，本は子どもの生活空間を越えて，視野を大幅に広げ，日常生活の中では出会えない時代や場所の人々や体験に触れることを可能にします。この体験は疑似的であっても，実体験と同様に子どもの社会性や感情的発達に寄与することが明らかになっています。

これらのエビデンスから言えることは，読書は明らかに子どもの発達によい影響を与えていることです。

想像力の発達や性格の形成などに関しては，エビデンスの評価が比較的低く，読書という行為がどのくらい発達に影響しているかの因果関係は，交絡因子が多く不明であるため，さらに研究する必要があります。しかし，客観的なエビデンスがなくても，主観的な見解を主張している研究が多く，とにかく積極的に否定する根拠もありません。

したがって，読書をすべきか，それともしなくてもよいのかという問いに対して，読書をした方が明らかに子どもの発達によい影響を与えることが断定できます。

引用

1)　Cunningham, Anne E., and Stanovich, Keith E., “What Reading Does for the Mind,” American Educator, Spring/Summer 1998, p.2-3.
2)　National Endowment for the Arts, To read or not to read : a question of national consequence (Research report #47), Washington : Office of Research & Analysis, National Endowment for the Arts, 2007, p.12.
3)　メアリアン・ウルフ著，小松淳子訳『プルーストとイカ－読書は脳をどのように変えるのか？』インターシフト，2008，p.156.
4)　ウルフ，p.156.
5)　ウルフ，p.134-135.
6)　ウルフ，p.135.
7)　阪本一郎著『現代の読書心理学』金子書房，1971，p.181.
8)　OECD, PISA 2009 Results: Learning to Learn – Student Engagement, Strategies and Practices (Volume III), OECD, 2010. p.35.
9)　Cunningham, p.1.
10)　McCain, Margaret Norrie, and Mustard, J. Fraser, Reversing the Real Brain Drain: Early Years Study Final Report, April 1999, p.9.
11)　McCain, p.6.
12)　OECD, “What Can Parents Do to Help Their Children Succeed in School?” PISA in Focus 2011/10 (November), OECD, 2011. p.2.

13） OECD, “Do Students Today Read for Pleasure?” PISA in Focus 2011/8 (September), OECD, 2011. p.2.
14） 山崎博敏編著『学力を高める「朝の読書」』メディアパル，2008，p.55 ff.
15） OECD, PISA 2009 Results, volume III: Learning to Learn, 2010, p.98.
16） Cunningham, p.7.
17） 天道佐津子編著『読書と豊かな人間性の育成』青弓社，2005，p.63.
18） OECD, PISA 2009 Results, volume III: Learning to Learn, 2010, p.35.
19） 酒井邦嘉著『脳を創る読書－なぜ「紙の本」が人にとって必要なのか』実業之日本社，2011，p.125.
20） Barber, John, “Books vs. screens: Which should your kids be reading?” The Globe and Mail, Monday, Dec. 12 2011, last updated Thursday, Sep. 06 2012
21） Mar, Raymond A., et al, “Bookworms versus Nerds: Exposure to fiction versus non-fiction, divergent associations with social ability, and the simulation of fictional social worlds”, Journal of Research in Psychology, September 2005, p.707.
22） 阪本，p.182.
23） ウルフ，p.130.
24） National Endowment for the Arts, 2007, p.55.
25） 阪本，p.181.
26） 阪本，p.181.
27） たとえば，National Endowment for the Arts, 2007, p.90.
28） ウルフ，p.131-132.
29） 阪本，p.180.
30） ウルフ，p.154.
31） 阪本，p.181.
32） キャサリン・シェルドリック・ロス，リン（E.F.）マッケクニー，ボーレット・M. ロスバウアー共著『読書と読者－読書，図書館，コミュニティーについての研究成果』京都大学図書館情報学研究会，2009，p.146.
33） 天道，p.78.
34） National Union of Teachers, Reading For Pleasure, London : Strategy and Communications Department of The National Union of Teachers, 2010, p.5.
35） National Endowment for the Arts, 2007, p.21.
36） OECD, Reading for Change : Performance and Engagement Across Countries, OECD, 2011, p.3.
37） 天道，p.64.

アンドリュー・デュアー著 「子ども司書のすすめ」(JLA 図書館実践シリーズ 44)、東京：日本図書館協会、2021 年

○策定委員

第二次土岐市読書活動推進計画策定委員会

（敬称略）

役　職	氏　名	備　考
委員長	アンドリュー・デュアー	東海学院大学教授
副委員長	豊田　高広	フルライトスペース株式会社特別研究員
委　員	加藤　宏峰	小中学校校長会代表
委　員	川瀬　衣津子	幼稚園・こども園園長会代表
委　員	髙木　緑	健康福祉部次長兼健康推進課長
委　員	神戸　詔悟	地域振興部次長兼生涯学習課長
委　員	虎山　泰昌	教育研究所指導主事
委　員	近﨑　奈保子	図書館ボランティア

事務局

役　職	氏　名
地域振興部長	山路　知治
図書館長	神戸　牧子
図書館副主幹兼読書活動推進係長	本間　陽子

第二次土岐市読書活動推進計画

第二次土岐市読書活動推進計画策定委員会

事務局　土岐市図書館

土岐市土岐津町土岐口 2154-9　／電話　0572-55-1253